

10月13日（日）

## 「シカゴマラソン」大阪応援ステーション訪問

シカゴマラソンは大阪マラソンと2011年（平成23年）に提携しており、今36回大会においては、大阪シカゴ姉妹都市提携40周年記念特別ツアーが企画され、特別ツアーの応募ランナー15名及び大阪マラソン招待選手2名が参加された。

大阪応援ステーションは、シカゴ姉妹都市協会大阪委員会が設置したものである。

宿所から地下鉄を乗り継ぎ、セジウィック駅から10分程度の場所に設置された大阪応援ステーションに代表団一行が到着した午前8時には、すでにマラソンのスタートが切られており、大阪応援ステーションにおいては「必勝」の鉢巻きと法被姿の応援団が和太鼓と摺り鉦を打ち鳴らし、眼前を通り過ぎるランナーに声援を送っていた。



代表団一行も「必勝」の鉢巻きを締めて声援を送り、交代で和太鼓を打ち、ジャケット姿であっても少し肌寒い10月のシカゴの沿道で、熱のこもった応援を繰り広げた。コース沿いで観覧する多数の観客の間にあっても、大阪応援ステーションはひときわ目を引き、ランナー達も手振り身振りで応えるなど、大いにマラソンを盛り上げる存在となっていた。

## シカゴ姉妹都市協会大阪委員会主催歓迎レセプション

シカゴマラソンの応援を終え、場所をシカゴ市内のレストランに移し、シカゴ姉妹都市協会大阪委員会主催の歓迎レセプションが開かれた。

姉妹都市協会大阪委員会事務局長のリロイ・アララ氏、田中副市長、高山市会副議長の挨拶の後、野下姉妹都市協会委員長の乾杯発声があり、和やかな雰囲気の中で昼食会が行われた。

### 【リロイ事務局長 挨拶要旨】

本日はようこそお越しいただいた。今年は姉妹都市提携40周年を迎え、非常にめでたいと思うとともにこのような催しを開催でき嬉しく思っている。また、多くのボランティアにご協力いただいた事に感謝する。

今年の4月に大阪を訪問する機会があり、素晴らしくきれいな街を見せていただき、シカゴ市と大阪市の共通点が多く印象に残っている。こうして皆様を歓迎できる事を光榮に思う。

#### 【田中副市長 挨拶要旨】

姉妹都市協会大阪委員会の皆様には、温かくお迎えいただき感謝する。大阪市とシカゴ市は1973年のパートナー都市提携以来、交流を行い成果を上げてきた。野下、スコット両共同委員長ほか多くの方に支えていただいたことに感謝申し上げます。大阪市とシカゴ市は、人口規模、スポーツ、エンターテイメント等共通点が多く、これからも様々な分野での交流促進を期待している。11月には交流団が来阪されると聞いている。両市の交流がますます発展することを祈願する。

#### 【高山市会副議長 挨拶要旨】

姉妹都市協会大阪委員会の皆様には、このように盛大なレセプションを開催いただき心からお礼申し上げます。昨晚シカゴ市に到着し街並みを見せていただいたが、非常に美しい街で、住んでみたいと思うほどである。

この度パートナー都市提携以来40年を迎えたことは意義深く、ここシカゴで共に祝うことができることを嬉しく思う。この40周年を機に両市の交流をより緊密なものとし、皆様と共に日本とアメリカの友好協力関係の発展に寄与して参りたい。

昼食会においては、ジャズシンガーでもある野下委員長の生演奏によるピアノ弾き語りも披露されるなど大いに盛り上がる中、交流が行われた。



姉妹都市協会大阪委員会の皆さんと記念撮影

## シカゴマラソン主催完走パーティー及び特別ツアー参加者との意見交換会

シカゴマラソン主催による完走パーティーがシカゴ市内のレストランにおいて開催され、完走者をねぎらうとともに特別ツアー参加者との意見交換が行われた。

シカゴマラソン・レースディレクターのケリー・ピンコウスキー氏の代理としてアスリーン氏から第36回大会の総括報告があり、その後、田中副市長より大会成功へのお祝いの言葉が述べられるとともに、大阪・シカゴ姉妹都市提携が40周年を迎えること、さらに2週間後に大阪において大阪マラソンが開催予定であることについて紹介があった。

パーティー会場には大勢のマラソン参加者が集まっており、会場内に流れるロック音楽と共にマラソンの興奮が冷めやらないままの盛り上がりを見せていた。

代表団一行は、マラソンを完走した特別ツアー参加の方々の疲れをねぎらいながら意見交換を行い、マラソン終了後の熱気を分かち合う事ができた。